

した。

平成22年度には、地域防災力の中核となる消防団の救助技術向上を図るため、総務省消防庁から消火資機材のほか、救助資機材を装備した多機能型車両の無償貸与を受け、平成25年度には一般社団法人日本損害保険協会から軽消防自動車（小型動力ポンプ積載）の寄贈があった。

表彰関係では、消防庁長官から竿頭綬が平成13年3月8日および平成30年3月7日に戸井消防団、平成20年3月7日に南茅部消防団、平成21年3月6日に函館消防団、椴法華消防団（函館市消防団は平成29年3月8日にも函館市消防本部と連名で授与）、平成22年3月5日に恵山消防団へ、また、表彰旗が平成22年3月5日に戸井消防団、平成26年3月5日に南茅部消防団、平成28年3月9日椴法華消防団、平成29年3月8日恵山消防団へそれぞれ授与された。

一方予防行政については、一般住宅への防火訪問等による住宅用火災警報器の設置促進を図り、また、査察対象物の立入検査を通じて、消防用設備等の維持管理はもとより、市民との対話による心の通った消防行政と自主防火管理の徹底に努めており、さらにこれらを市民一人ひとりのものとするため、昭和9年3月21日の函館大火にちなんで毎月21日を「防火の日」と定め、きめ細かい予防活動を展開している。

この間当市では、昭和28年3月国家消防本部から優良消防機関として第1回の表彰を受けた。また、昭和35年7月1日「国民安全の日」が創設されたが、防火思想の普及と消防力の充実に特に優秀な成績をあげ、国民安全に寄与したものとして全国の消防機関に先がけて第1回の内閣総理大臣表彰を受賞、翌36年3月6日には全国で初めて市議会の議決により「安全都市」を宣言し、市民と消防機関とが一体となり災害のない、明るい都市建設を目指している。

平成23年3月3日、平成29年3月8日には、優良消防機関として消防庁長官から竿頭綬が授与された。

広域応援については、平成5年7月12日発生の北海道南西沖地震の際に、被害の最も大きかった奥尻島へ60名の職員を派遣し、救援活動等に従事、その功績が認められ平成6年7月28日に消防庁長官表彰を受賞した。また、平成12年3月30日から平成12年5月19日の51日間に有珠山噴火災害に延べ人員896名、延べ車両245台を派遣し、救援救護活動等に従事、平成12年8月18日に消防庁長官褒状を授与され、平成13年8月30日には北海道知事表彰を受章した。平成15年9月28日に発生した苫小牧出光興産(株)北海道製油所タンク火災に際し、火災発生の際のあるタンクの危険排除のため予防支援活動の応援体制が実施され、平成15年10月11日の第1次応援隊から平成15年10月21日の第3次応援隊までの11日間に延べ人員83名、延べ車両26台を派遣し、支援活動等に従事、その功績が認められ、平成15年12月22日に北海道知事表彰を受章した。さらに、平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部地震の際に、最も被害の大きかった勇払郡厚真町へ9月6日から10日までの5日間に延べ人員24名、延べ車両6台を派遣し、救助活動等に従事、その功績が認められ、平成31年3月18日に北海道知事表彰を受章した。

その他として、平成17年9月6日、7日に緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練に参加部隊174隊、参加人員690名で開催予定であったが、台風14号の来襲により訓練前日に中止が決定となった。